1　夏目漱石「吾輩は猫である」

【解答と採点基準】

問一　㋐　路傍　㋑　猶予　㋒　遭遇　㋓　終日　㋔　徴候（兆候）（2点×5）

問二　a　エ　b　イ（2点×2）

問三　（Ⅰ）エ　（Ⅱ）イ（2点×2）

問四　縁（2点）

問五　たいして興味はないが、追い出すのもかわいそうだから飼えばよいという淡々とした気持ち。（5点）

【採点基準】「あまり興味はない」という関心の薄さ2点、「追い出すのはしのびない」という憐憫1点、飼うことの決定2点。「騒ぎを早く収めたい」という、面倒を嫌う気持ちを書いてもよいが、なくても正解とする。

問六　自分は猫を追い出したいのだが、主人に命ぜられて、しかたなく家に入れなければならないから。（四十四字）（5点）

【採点基準】「自分は追い出したい」という気持ち1点、「主人の命令だから」という立場2点、「家に入れなければならない」という事態2点。

問七　ア・エ（2点×2）

問八　ウ・エ（3点×2）

【文学史】 1　1　ウ　2　オ　3　コ　4　カ　5　キ（2点×5）

2　森　鷗外「渋江抽斎」

【解答と採点基準】

問一　㋐　抗　㋑　配偶　㋒　授　㋓　きせる　㋔　論陣（2点×5）

問二　a　ウ　b　イ（2点×2）

問三　商業の再興を勧める五百の言葉に母を従わせようとすること。（二十八字）（4点）

【別解】五百の言葉に従い、母に商業を再興させようとすること。（二十六字）

【採点基準】使役の文型「母に従うことをさせる」「母を従わせる」2点、「五百の言」の内容「（会津屋の）商業を再興させようとする」2点。

問四　エ（3点）

問五　ウ（3点）

問六　厳しい忠告（3点）

問七　的確な故事を引用する博識に驚くとともに、意見する精神力の強さにも感服し、尊敬の念を抱いたから。（四十七字）（6点）

【採点基準】男に負けない博識で、的確な故事を引用できること2点、「厳しさ」「厲しさ」をもって忠告する精神力の強さ2点、宗右衛門が尊敬・感服の念を抱いたこと2点。

問八　エ（3点）

問九　オ（4点）

【文学史】1　1　イ　2　エ　3　オ　4　ク　5　ケ　（2点×5）

3　有島武郎「生れ出づる悩み」

【解答と採点基準】

問一　㋐　厳粛　㋑　陰謀　㋒　あわ　㋓　遠慮　㋔　せきりょう　（2点×5）

問二　a　ウ　b　イ　c　オ　（2点×3）

問三　価値を生み出す仕事とは異なるただの遊び。（二十字）　（3点）

【別解】実生活と無関係で役に立たない道楽。（十七字）

【採点基準】「戯れ」が、生活のための労働や仕事とは認められない「遊び・道楽」であること2点。「小供じみた」も、一人前の大人として認められない・生活を支えられない意味で、1点。

問四　ウ　（4点）

問五　昼食もとらずにスケッチに打ち込んでいたから。（二十二字）　（4点）

【別解】弁当を食べる間も惜しんで絵を描いていたから。（二十二字）

【採点基準】スケッチに没頭していたこと2点、そのために食事をとっていなかったこと2点。

採録箇所の前には「君が昼弁当を食う事も忘れて、四枚も五枚ものスケッチを作った時には、もうだいぶ日は傾いている。」とあるが、別解のように自分の意志で食べなかったとしても可とする。

問六　「君」に夕食を提供せず、かつ帰さなくてすんだ。（二十三字）　（4点）

【別解】両親に経済的負担をかけずに「君」を引き止められた。（二十五字）

【採点基準】「君」を引き止めたこと2点、夕食を食べさせずにすんだこと2点。別解の「経済的負担」はやや抽象的だが、それぞれのレベルで二要素が書かれていればよい。

問七　イ　（4点）

問八　エ　（5点）

【文学史】1　1　ウ　2　イ　3　オ　4　キ　5　ク　（2点×5）

4　志賀直哉「暗夜行路」

【解答と採点基準】

問一　㋐　朽　㋑　あずき　㋒　浪費　㋓　訪　㋔　遂　（2点×5）

問二　a　イ　b　イ　c　オ　（2点×3）

問三　翡翠の　（2点）

問四　世の中の複雑な人間関係の煩わしさを強調する効果。（二十四字）　（3点）

【採点基準】「人」を三つ重ねた表現で「複雑な・入り組んだ」人間関係を表していること1点、そこから想像される「煩わしさ・つらさ・難しさ・苦悩」などの心情1点、「強調する」効果1点。

問五　ついに人類　（2点）

問六　自然の意志に反する人間の思い上がった振る舞いが人類を破滅に導くと思われたから。（三十九字）　（５点）

【採点基準】飛行機は「自然の意志」に反するものだということ１点、「空中を征服」し、「鳥のように飛」ぶことは、「無制限な人間の欲望」で「人智におもいあがっている」ということ２点、その結果、「人間を不幸に導く・酷い罰を被る」のではないかということ２点。

問七　エ　（４点）

問八　ウ・カ　（４点×２）

【文学史】1　1　イ　2　キ　3　ケ　4　オ　5　カ　（２点×５）

5　芥川龍之介「一塊の土」

【解答と採点基準】

問一　㋐　相場　㋑　愚痴　㋒　隠居　㋓　天性　㋔　自慢　（２点×５）

問二　a　オ　b　イ　（２点×２）

問三　自分に家事一切を押しつけて男以上に外で働くお民に、尊敬を通り越して理解しがたい脅威を感じていた。（四十八字）（５点）

【採点基準】お民が男性以上に外の仕事をすること１点、お住に家の仕事を押しつけること１点、「尊敬を通り越す」「感心するという程度を越える」など、「敬意というよりも」の言い換え１点、「理解しがたい脅威・怖さ・畏れ」など「畏怖」の説明２点。

問四　イ　（３点）

問五　お民が桑畑を作ることを強引に決め、自分の仕事がこれからも楽になることはないとわかったとき。（四十五字）　（５点）

【採点基準】決定されたこと「お民が桑畑を作ることを強引に決めた」２点、お住の心情「このままでは自分は楽にならない」３点。

問六　（墓の掘り役を自分でするという）お民の言葉を冗談として一笑に付すことで、それがとんでもないことだと伝えるため。　（５点）

【採点基準】「お民の言葉」という対象１点、言葉の内容「墓の掘り役を自分でする」はなくても可。「笑って取り上げない・笑い飛ばす・冗談に済まそうとする」という態度１点、「とんでもない・非常識だ」という判断２点、その判断を「示そうとした」という意図１点。

問七　ウ　（４点）

問八　エ　（４点）

【文学史】1　1　ア　2　カ　3　ケ　4　ク　5　ウ　（２点×５）